

I . 分 析

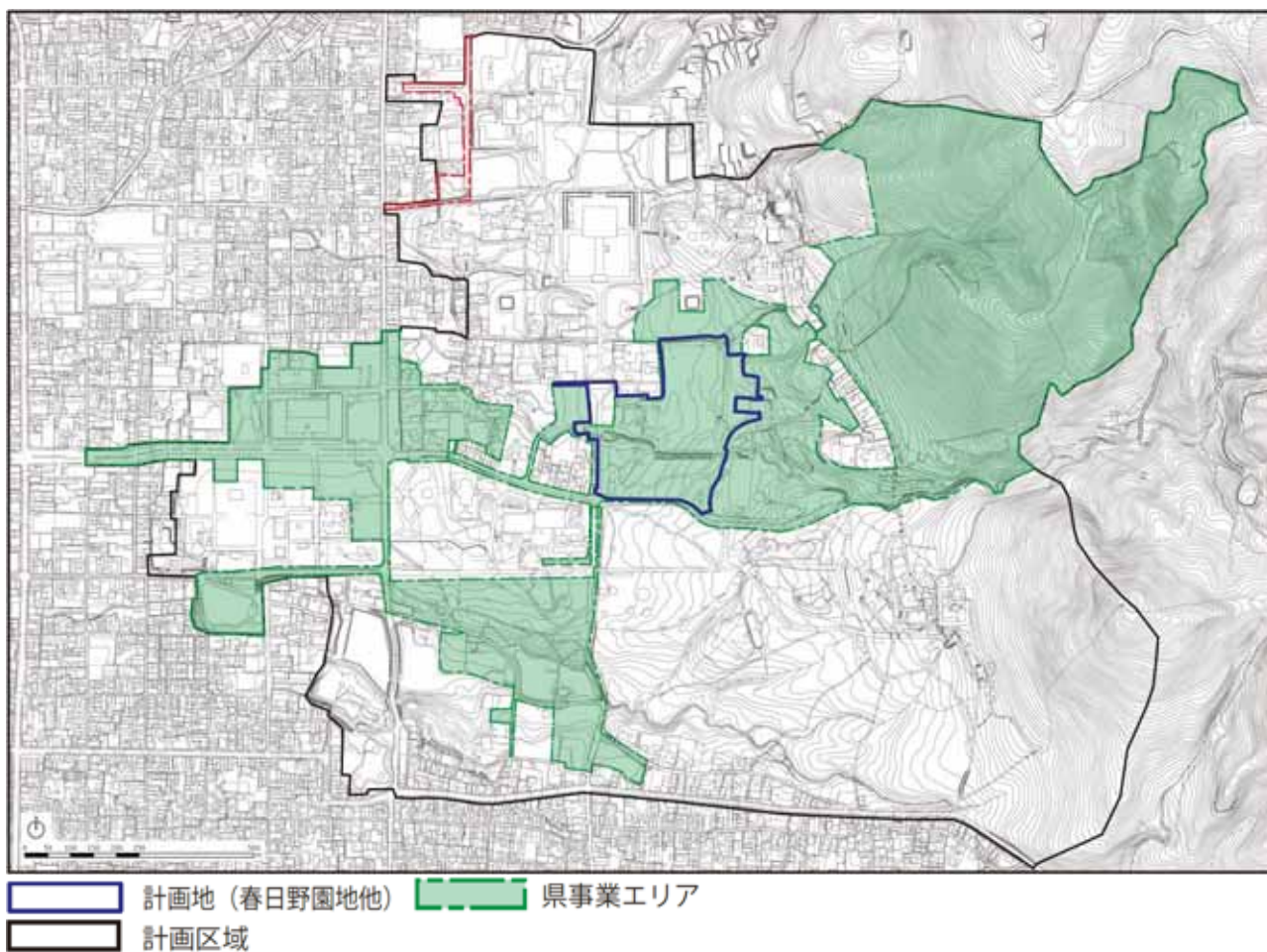
I-1 計画地の特性

(1) 計画地の立地

特性-1 計画地の立地

計画地は、公園全体の計画区域のほぼ中央に位置し、その範囲の大半は都市公園区域に含まれており、都市公園としての奈良公園の中心的役割を担っている。

1) 計画地の位置・諸元



図：計画地の位置

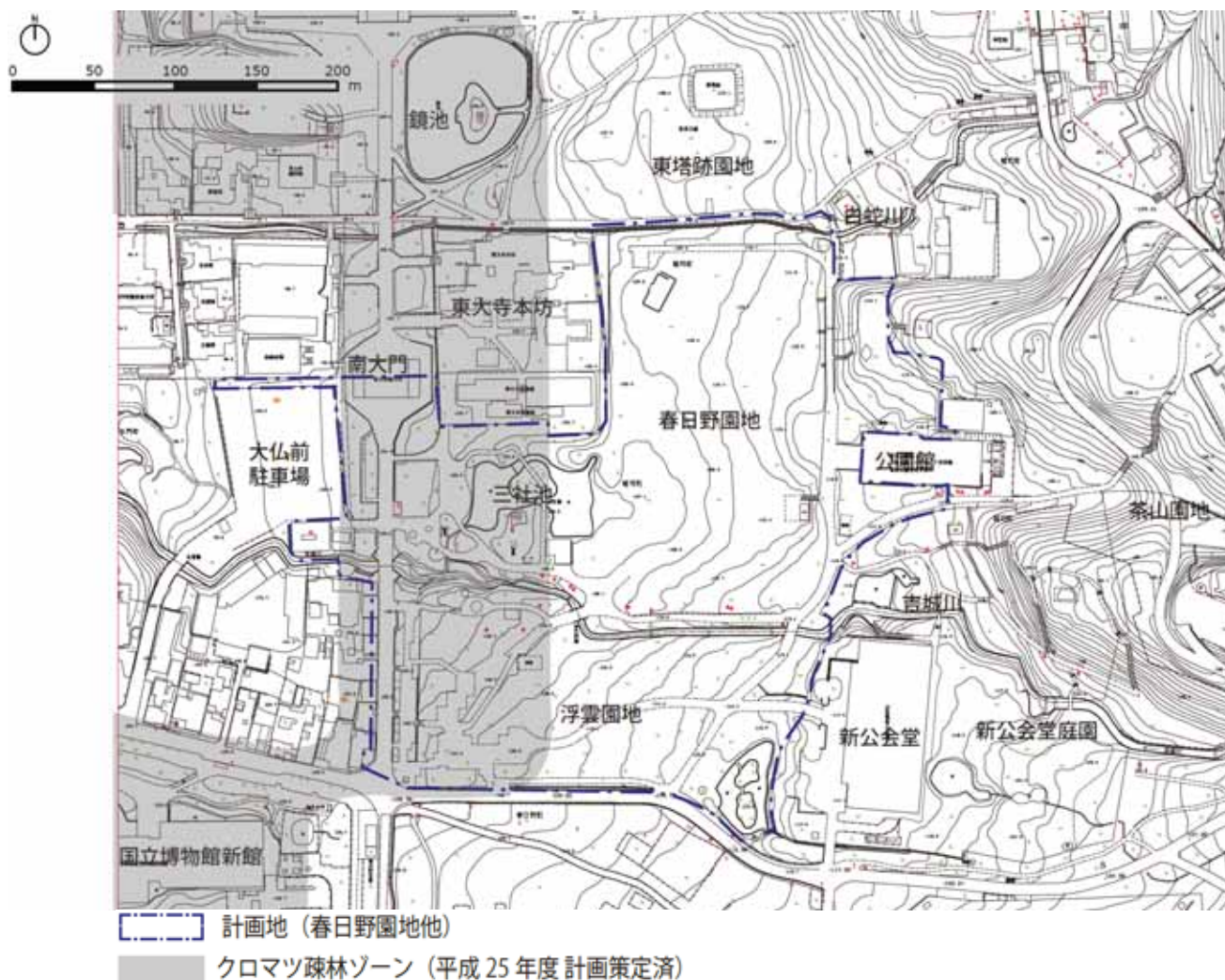
○面積 約9.4ha

○土地内訳 県事業エリア（都市公園：奈良公園） 約8.9ha
東大寺境内 約0.5ha

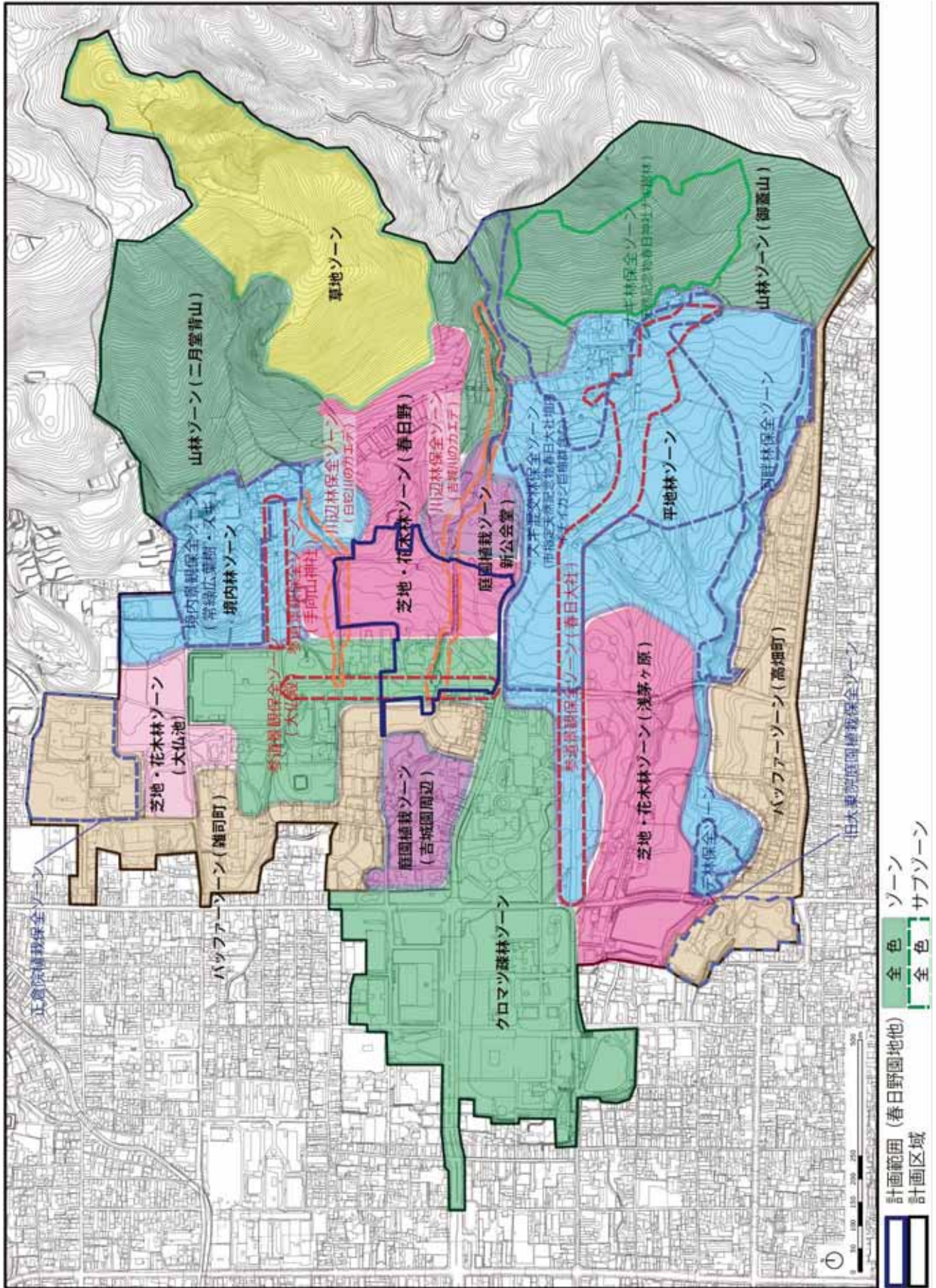
2) 計画地とゾーニングの関係

計画地は、西側がクロマツ疎林ゾーンに含まれ、東側が芝地・花木林ゾーン（春日野）に含まれている。このほか、サブゾーンである参道景観保全ゾーン（大仏殿）、川辺林保全ゾーンの一部が計画地に含まれている。

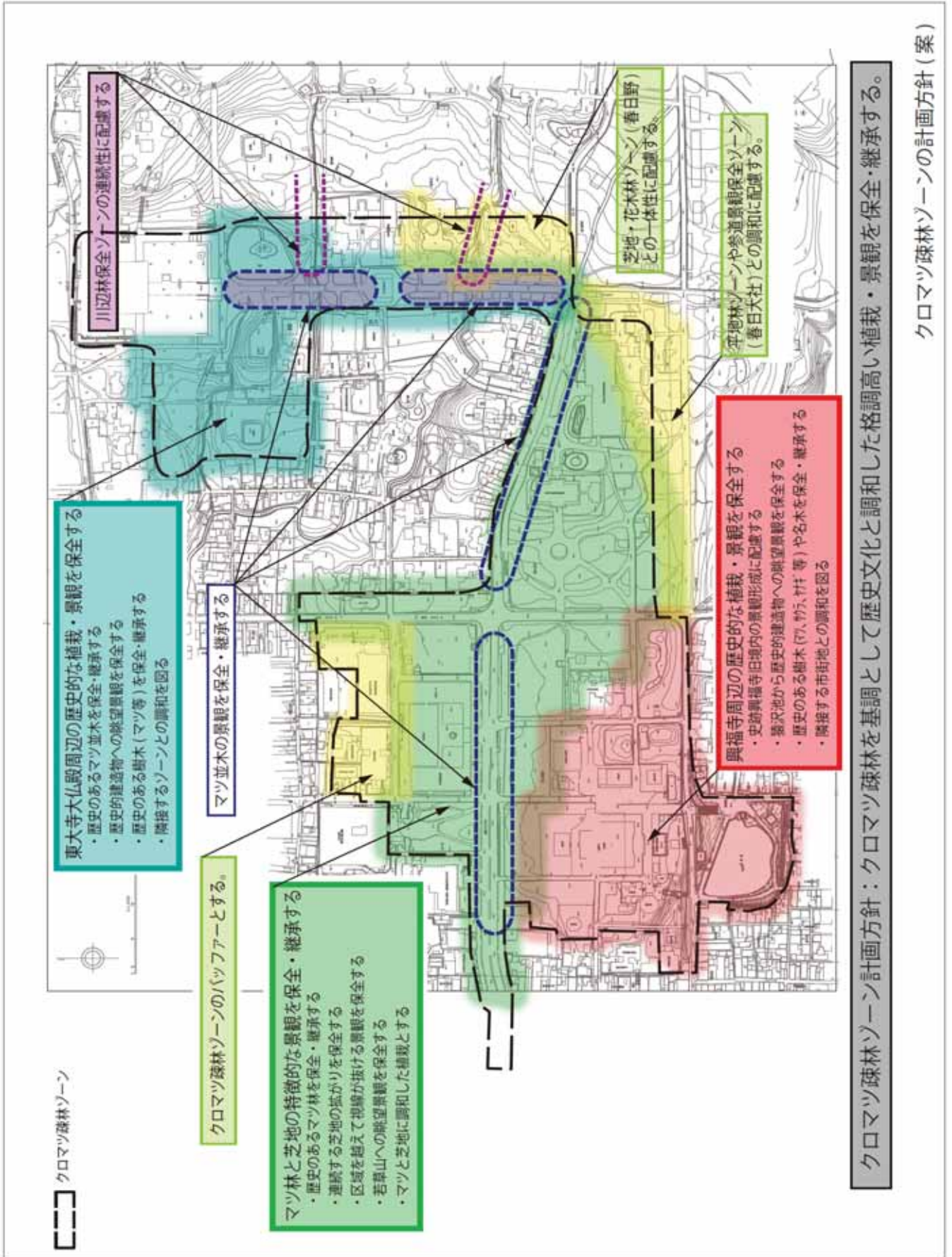
計画地は、平成25年度に策定したクロマツ疎林ゾーン植栽計画の範囲と重複している。これは、春日野園地及び浮雲園地は景観や利用の面で隣接するクロマツ疎林ゾーンとの関わりが非常に大きく、計画検討にあたってはクロマツ疎林ゾーンと一体的に行う必要があるためである。



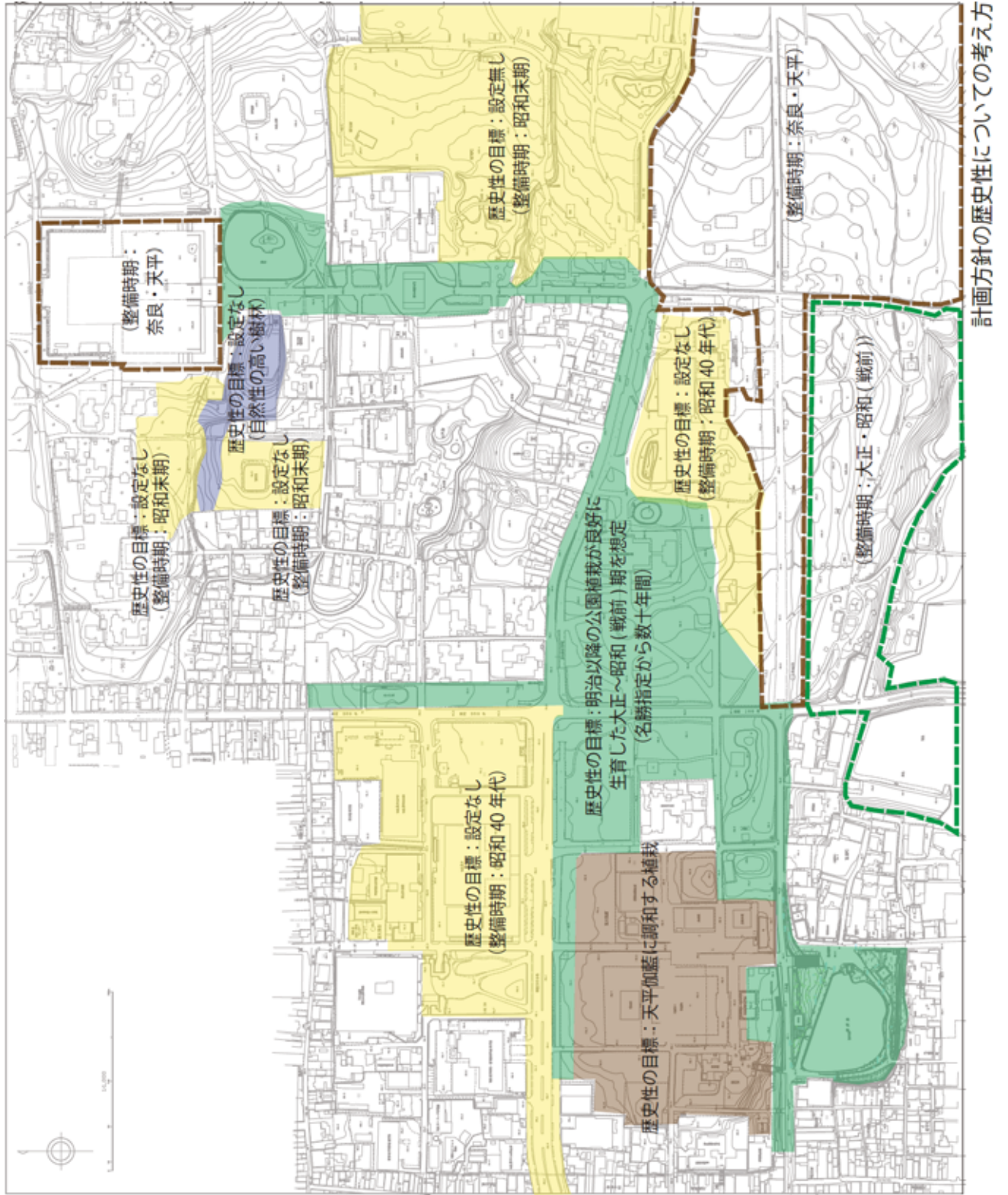
図：計画地の範囲



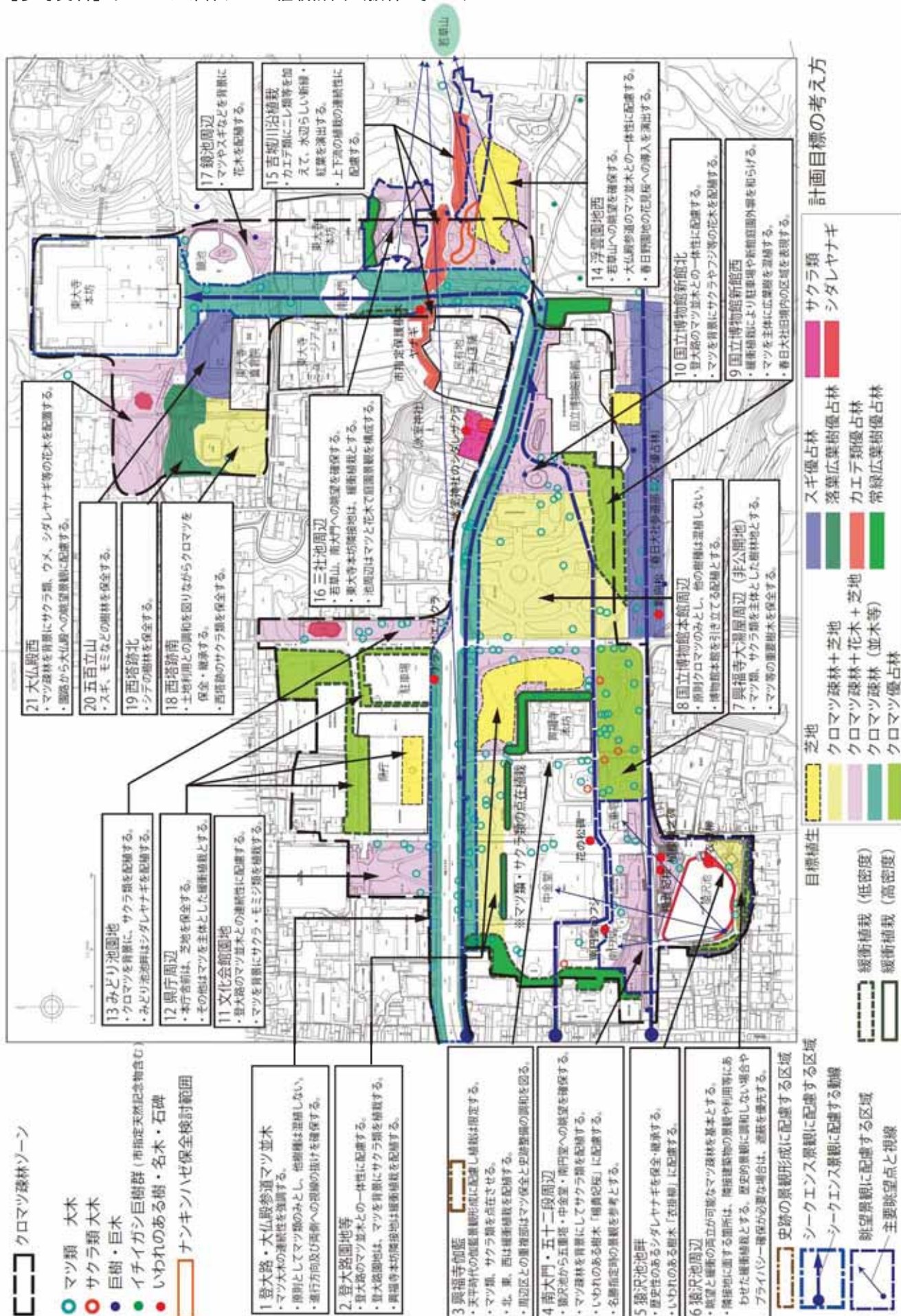
図：計画地とゾーニング



図：計画方針図



図：計画方針の歴史性についての考え方



図：計画目標の考え方

(2) 歴史的な経緯

特性－2 歴史的な経緯

計画地は一部が史跡東大寺旧境内に含まれているが、現在の施設や植栽等は明治期の公園編入（1889）後またはシルク博（1988）開催後に整備されたもので、計画地内に歴史性の高い事物はない。

1) 計画地の来歴

年 次	内 容
明治 13 年 (1880)	・ 太政官布達により明治 13 年 (1880) 開設 (※本計画地は含まれていない。)
明治 22 年 (1889)	・ 春日野・浅茅ヶ原等の名勝地、東大寺・氷室神社等の寺社境内地、若草山・春日山等の山野を含む新奈良公園地（奈良県立奈良公園）を告示
明治 30 年 (1897)	・ 公園平坦地、芳山に楓、桜、柳、松、百日紅、杉などを植樹
明治 36 年 (1903)	・ 奈良県公会堂（1 号館）を整備
明治 43 年 (1910)	・ 春日野運動場を整備
大正 11 年 (1922)	・ 奈良公園を名勝に指定
大正 14 年 (1925)	・ 運動場東部を拡張して庭球場を整備
昭和 04 年 (1929)	・ 春日野水泳場および児童遊戯場を整備
昭和 04 年 (1929) 頃	・ ナンキンハゼ苗の植樹
昭和 07 年 (1932)	・ 東大寺旧境内を史跡に指定
昭和 22 年 (1947)	・ 奈良公園区域から東大寺・興福寺・手向山八幡宮等の境内地を除籍
昭和 62 年 (1987)	・ 奈良県新公会堂を整備
昭和 63 年 (1988)	・ なら・シルクロード博の開催
平成 02 年 (1990)	・ 春日野園地（春日野運動場跡）および浮雲園地・三社池（春日野水泳場および児童遊戯場跡）、奈良公園館（春日野庭球場跡）として再整備

表：計画地の来歴年表 出典：「奈良公園史」

「奈良公園の植物」北川尚史

2) 航空写真で見る変化



1961年6月19日 (第二室戸台風被害直前)



1979年9月11日 (奈良公園開設百年記念植樹祭直前)



1993年5月16日（なら・シルクロード博開催後の再整備後）

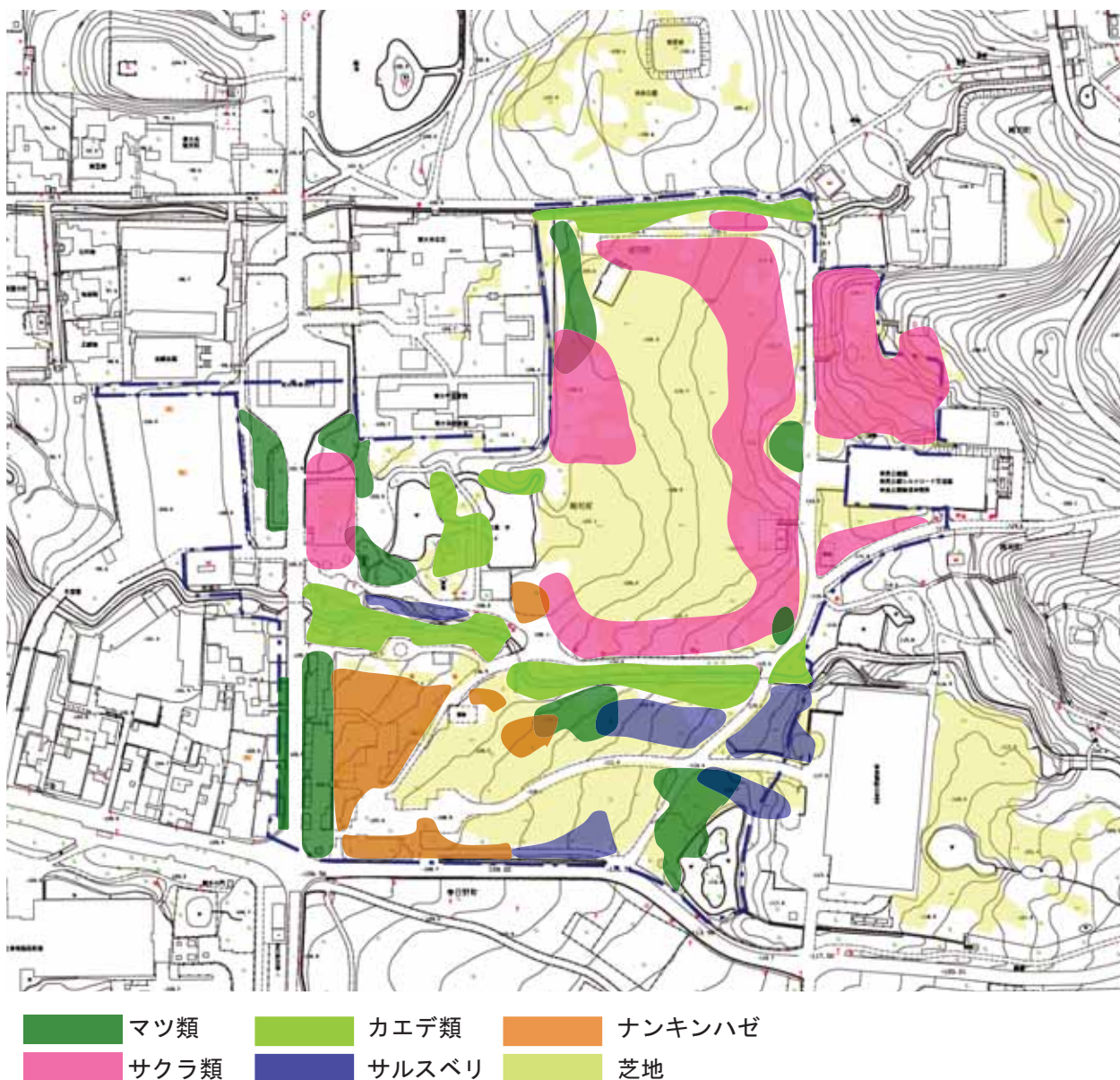


2008年5月15日

(3) 植栽の分布と生育状況

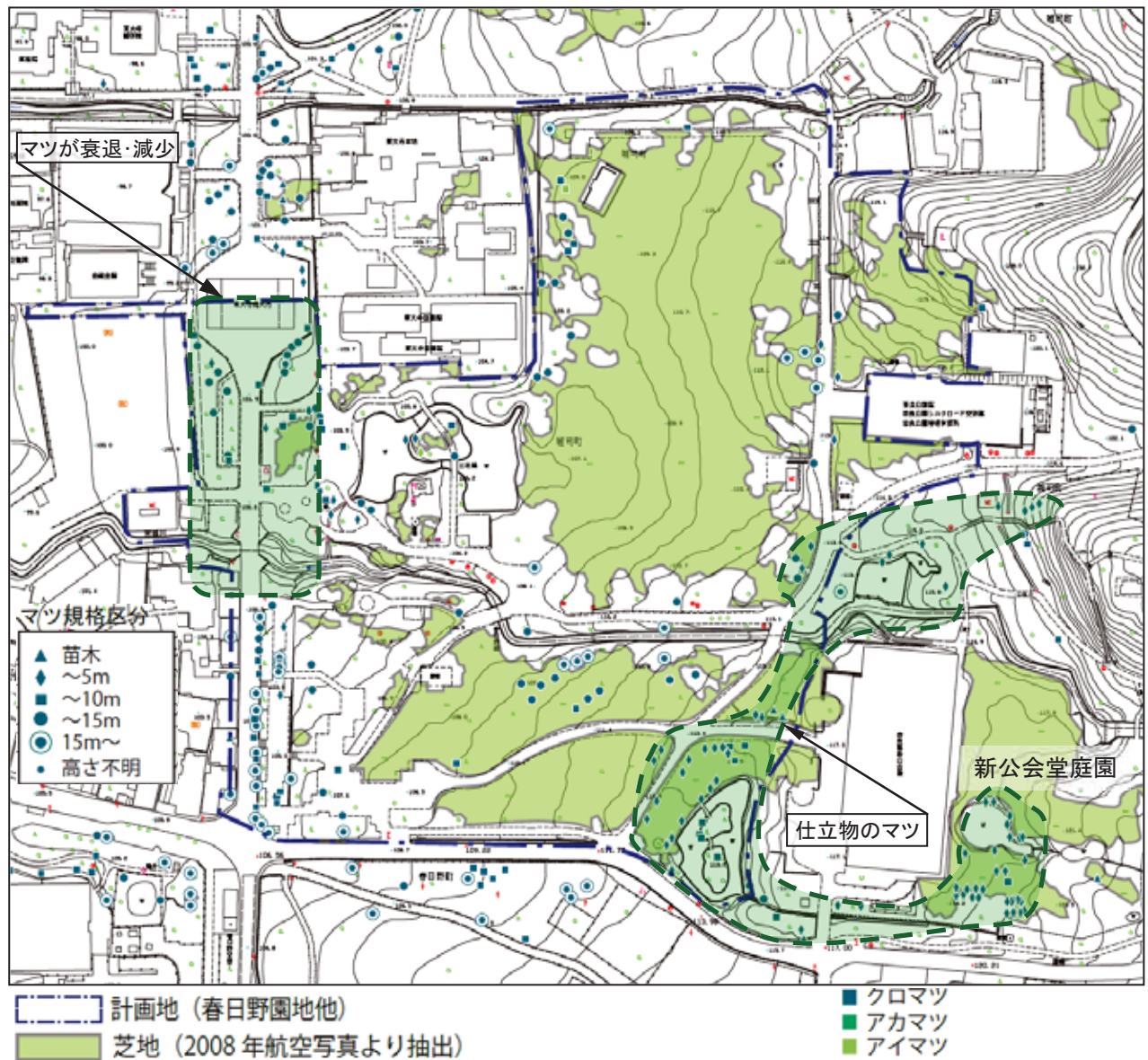
特性－3 植栽の分布と生育状況

- ・計画地は、奈良公園内で最大級の広がりのある芝地が特徴である。
- ・主な樹種としてマツ類、サクラ類、カエデ類、サルスベリ、ナンキンハゼがあり、樹種毎にまとまって分布しており、それぞれに魅力ある特徴的な景観を作り出している。
- ・サクラ類は花見の名所として、カエデ類やナンキンハゼ等は紅葉の名所として知名度が高い。
- ・計画地内には、大仏殿参道付近を除き大木や古木は少ない。



図：主要樹木の分布

①クロマツ



出典：樹木分布調査 (H25年度)

図：芝地とマツ類の分布

<p>分布と履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツの分布は大仏殿参道付近、春日野園地の東大寺本坊隣接部、吉城川沿い、新公会堂周辺に多い。 ・大仏殿参道付近は、明治後期に植栽されたクロマツが並木状に保存・継承されている。但し、吉城川以北(南大門南面部分)は衰退・減少している。 ・浮雲園地、春日野園地、新公会堂周辺のクロマツは、平成以降の植栽。
<p>生育・管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体にマツ枯れにより相当本数の減少が続いている。適宜補植されているが、本数的には枯れる本数が上回っている。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="341 490 1000 981">  <p style="text-align: center;">マツ並木：浮雲園地西端</p> </div> <div data-bbox="1038 490 1390 981">  <p style="text-align: center;">補植若木：大仏殿参道</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・新公会堂周辺のマツは多くが、仕立物として定期的に剪定されている。 <div data-bbox="344 1137 1163 1626">  <p style="text-align: center;">仕立物のマツ：新公会堂アプローチ</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・マツ類は、原則としてマツクイムシ対策として薬剤注入を行っている。
<p>周辺のマツ類</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツ疎林ゾーンにはクロマツが多く見られるが、山麓部にはマツ類は少ない。 ・仕立物のマツは、新公会堂庭園内にも多く見られる。
<p>まとめ・評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツは、東大寺大仏殿参道を特徴付けるシンボリックな存在である。明治より受け継がれる古木も多く、優先して保護・育成する必要がある。 ・新公会堂周辺のマツは、サルスベリもあわせて配植を再検討し、庭園的な演出を高めることが望ましい。

②サクラ類



図：芝地とサクラ類の分布

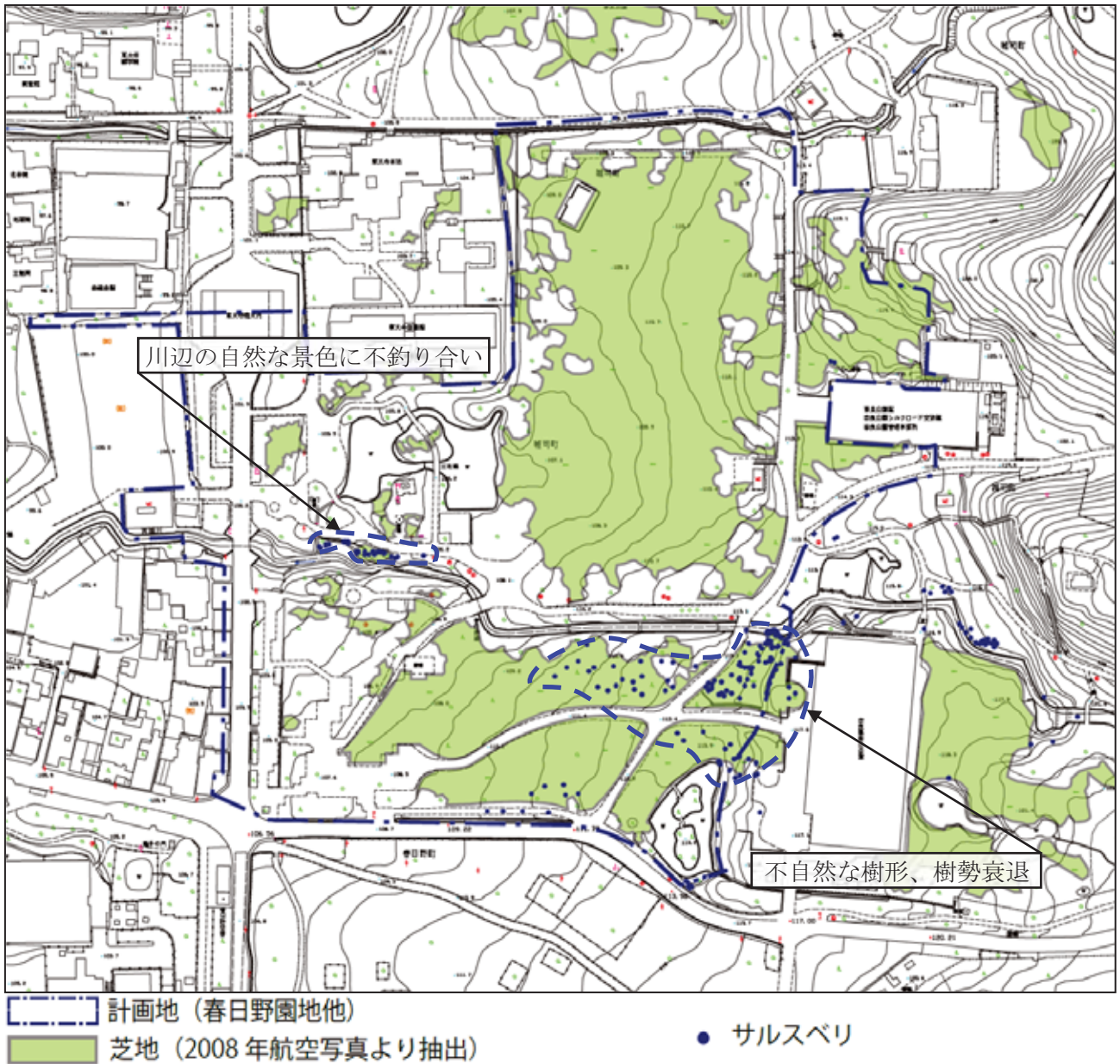
③カエデ類



図：芝地・水系とカエデ類の分布

<p>分布と履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カエデ類の分布は、吉城川、白蛇川、三社池等の水系付近が非常に多く、芝地に分布するものは僅かである。 ・カエデ類のほとんどは、イロハモミジである。 ・吉城川や白蛇川沿いの一部には古木が見られるが、大半は平成以降の植栽と考えられる。
<p>生育・管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カエデ類の生育は余り良好ではないが、枯死するものは少ない。 ・剪定など定期的な管理作業はされていない。 ・吉城川沿いのイロハモミジは、一部で過密なところがある。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="290 524 890 999">  <p style="text-align: center;">イロハモミジの古木：吉城川沿い</p> </div> <div data-bbox="900 524 1439 999">  <p style="text-align: center;">過密なイロハモミジ：吉城川沿い</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・白蛇川沿いのイロハモミジは、ほぼ自然樹形である。 <div data-bbox="290 1151 903 1603">  <p style="text-align: center;">白蛇川沿い</p> </div>
<p>周辺のカエデ類</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吉城川沿いのイロハモミジは、上流の新公会堂庭園内にカエデ類が連続している。 ・白蛇川のイロハモミジは、隣接する東塔跡園地のイロハモミジと一体となっている。
<p>まとめ・評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・吉城川沿い及び白蛇川沿いのカエデ類は、紅葉の名所として広く知られており、人気が高い。 ・紅葉の魅力向上検討については、ケヤキやイチヨウなど他の樹種との関わりに配慮すべきである。 ・計画地周辺のカエデ類と一体的であり、この点に配慮した利活用が望ましい。 ・全体には良好であるが、一部、樹形不良や過密も見られる。

④サルスベリ

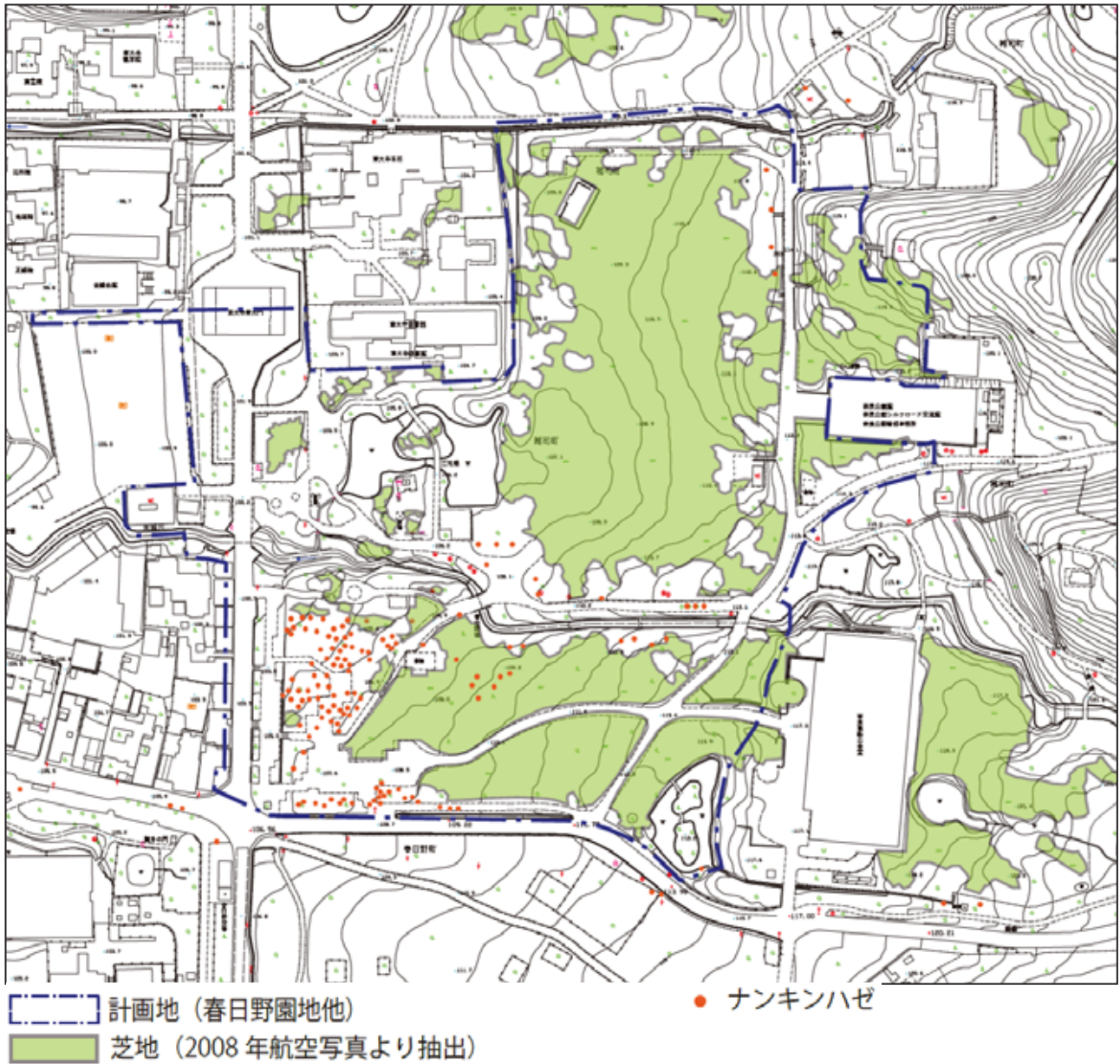


出典：名勝奈良公園保存管理・活用計画 資料（H23年度）

図：芝地とサルスベリの分布

分布と履歴	<ul style="list-style-type: none"> ・サルスベリの分布は、新公会堂周辺に集中しており、一部吉城川沿いにも見られる。 ・ほとんどは平成2年頃に移植されたものと考えられる。
生育・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・移植時に強剪定をされた樹形が現在もほとんど変わらないものと思われる。 ・毎年<u>に定位置で剪定されており、自然な樹形からはほど遠い。</u> ・<u>病害を受けて衰退しているものが大変多い。</u> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">新公会堂アプローチ（平成26年8月）浮雲園地の芝地（同左）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>毎年11月頃に剪定されているため、紅葉は見られない。</u> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">川辺に不釣り合い：吉城川沿い（平成26年11月）病害樹が非常に多い</p>
計画地周辺のサルスベリ	<ul style="list-style-type: none"> ・新公会堂庭園には、サルスベリが見られる。 ・その他の場所の分布は少ない。
まとめ・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・大半のサルスベリは移植の影響を受けて樹形が著しく乱れている。樹勢が衰退し、樹幹の腐朽が激しいものも数多く、花を観賞する状態ではない。 ・剪定の時期や方法を見直し、健全な生育状況を回復することが必要である。樹形回復が難しい樹木は、植替え更新が必要である。

⑤ナンキンハゼ



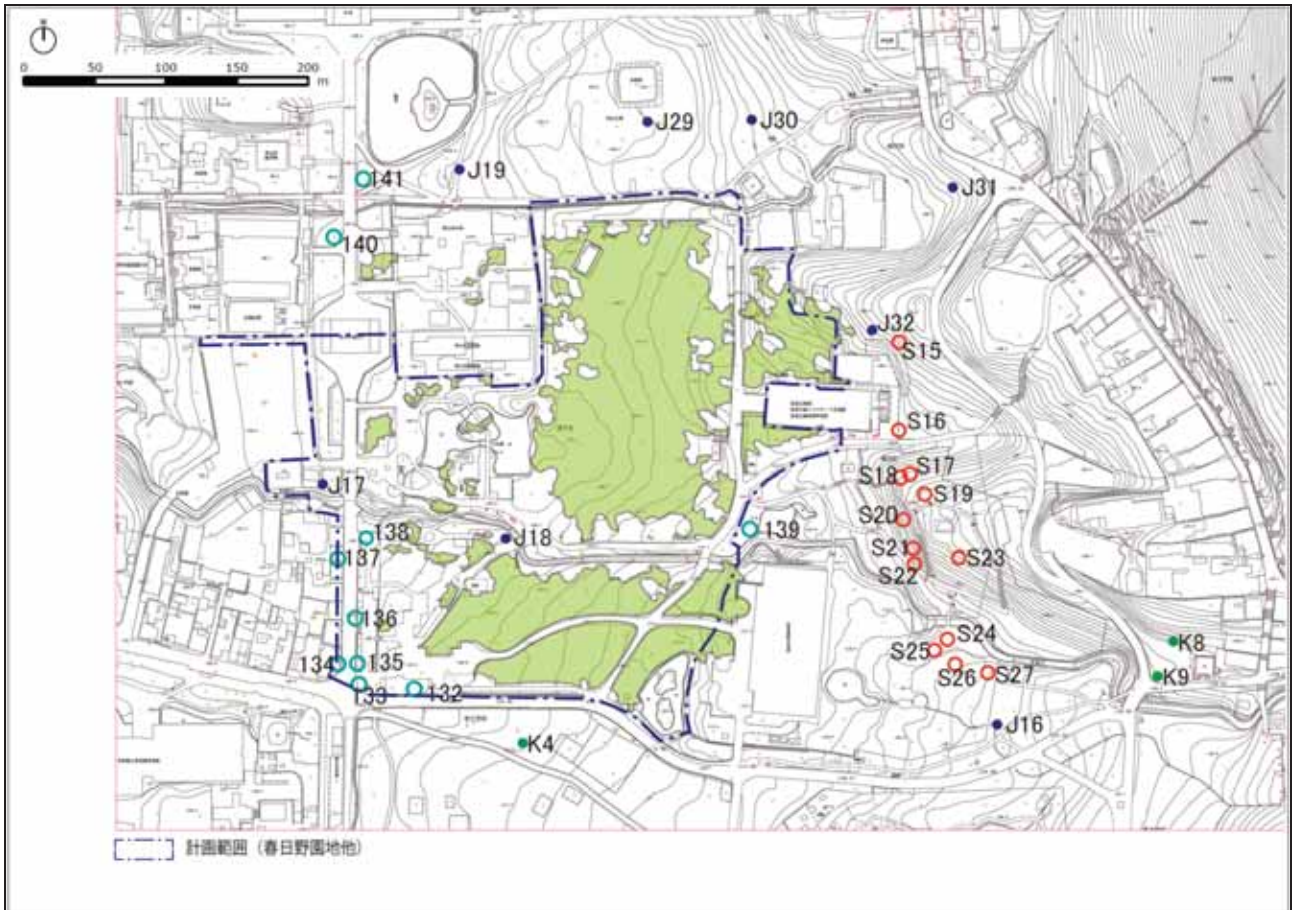
出典：名勝奈良公園保存管理・活用計画 資料（H23年度）

図：芝地とナンキンハゼの分布

<p>分布と履歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ナンキンハゼの分布は、浮雲園地西部に集中するほか、春日野園地外周部にも見られる。 ・ほとんどは、昭和初期に苗木植栽されたものと考えられる。
<p>生育・管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生育は良く、ほとんどが良好な自然樹形である。 ・浮雲園地西部には密度が高い純林があるが、純林内部のナンキンハゼは生育が遅く、幹周が小さい。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ナンキンハゼの紅葉：浮雲園地西部</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>純林の内部：同左</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>浮雲園地南部</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ケヤキとナンキンハゼ：春日野園地南部</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ナンキンハゼは剪定や薬剤散布など定期的な管理作業は実施していない。
<p>計画地周辺のナンキンハゼ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国立博物館構内や春日大社境内に点在する。但し、本数は多くない。
<p>まとめ・評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・樹形も良く、紅葉の魅力もあり、景観としては魅力的である。 ・奈良公園の紅葉を代表する樹種の一つ。 ・<u>自然地への種子散布の抑制ができない場合は、伐採する必要がある。</u>

⑥重要樹木

平成 25 年度に実施した重要樹木調査の結果から、計画地及び周辺地に位置する重要樹木を抽出した。



図：重要樹木位置図

NO	樹種名	形状寸法		選定区分			位置情報	
		樹高	幹周	巨樹リスト	巨樹群	大径木	調査地	ゾーン
J016	フジ	14.6	1.23	○			新公会堂裏	平地林ゾーン
J017	アカメヤナギ	15.0	3.36	○			南大門南	クロマツ疎林ゾーン
J018	シダレヤナギ	5.8	2.23	○			南大門南東	クロマツ疎林ゾーン
J019	アラカシ	15.5	3.70	○			鏡池東	クロマツ疎林ゾーン
J020	イヌマキ	13.3	2.71	○			鏡池東	境内林ゾーン
J021	ナナミノキ	14.3	1.99	○			大仏池南	芝地・花木林ゾーン(大仏池)
J022	イヌシデ	15.7	2.45	○			大仏池南	芝地・花木林ゾーン(大仏池)
J023	イチョウ	21.5	3.00	○			大仏池東	芝地・花木林ゾーン(大仏池)
J024	ナナミノキ	17.2	2.34	○			大仏殿北	芝地・花木林ゾーン(大仏池)
J025	ムクロジ	23.1	3.96	○			東大寺四月堂南西	境内林ゾーン
J026	ナギ	7.0	2.93	○			二月堂下	境内林ゾーン
J027	カヤ	16.3	3.84	○			二月堂	境内林ゾーン
J028	オガタマノキ	17.0	2.60	○			手向山八幡宮	境内林ゾーン
J029	モミ	25.0	3.92	○			東塔跡	芝地・花木林ゾーン(春日野)
J030	センダン	20.4	4.37	○			東塔跡南東	芝地・花木林ゾーン(春日野)
J031	ムクノキ	32.5	4.57	○			手向山神社南	境内林ゾーン
J032	コナラ	20.2	4.34	○			シルクロード館北	芝地・花木林ゾーン(春日野)
K004	イチイガシ	20.6	2.79		○		春日交番東	平地林ゾーン
K008	イチイガシ	27.7	2.93		○		春日山遊歩道北口	山林ゾーン
K009	イチイガシ	21.4	3.35		○		春日山遊歩道北起点	山林ゾーン
131	クロマツ	17.6	2.18			○	飛火野	平地林ゾーン
132	クロマツ	15.4	2.26			○	東大寺参	クロマツ疎林ゾーン
133	クロマツ	16.7	2.01			○	東大寺参	クロマツ疎林ゾーン
134	クロマツ	20.1	2.85			○	東大寺参	クロマツ疎林ゾーン
135	クロマツ	21.8	2.00			○	東大寺参	クロマツ疎林ゾーン
136	クロマツ	17.7	2.19			○	東大寺参	クロマツ疎林ゾーン
137	クロマツ	19.5	2.55			○	東大寺参	クロマツ疎林ゾーン
138	クロマツ	21.8	3.14			○	東大寺参	クロマツ疎林ゾーン
139	クロマツ	15.0	2.27			○	新公会堂	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
140	クロマツ	20.3	2.22			○	南大門北	クロマツ疎林ゾーン
141	クロマツ	25.5	2.33			○	南大門北	クロマツ疎林ゾーン
S015	ヤマザクラ	12.2	1.77			○	シルクロード東	芝地・花木林ゾーン(春日野)
S016	ヤマザクラ	11.3	1.85			○	シルクロード東	芝地・花木林ゾーン(春日野)
S017	ヤマザクラ	13.7	1.91			○	新公会堂山	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
S018	ヤマザクラ	9.4	1.90			○	新公会堂山	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
S019	ナラノココノエザクラ	13.1	1.60			○	新公会堂山	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
S020	ヤマザクラ	12.0	2.47			○	新公会堂山	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
S021	ヤマザクラ	10.8	1.29			○	新公会堂山	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
S022	ヤマザクラ	11.8	2.78			○	新公会堂山	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
S023	エドヒガンザクラ	20.2	2.24			○	新公会堂山	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
S024	エドヒガンザクラ	18.4	2.14			○	新公会堂庭	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
S025	エドヒガンザクラ	17.5	1.92			○	新公会堂庭	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
S026	ヤエベニシダレ	5.8	0.94			○	新公会堂庭	庭園植栽ゾーン(新公会堂)
S027	エドヒガンザクラ	17.8	2.84			○	新公会堂庭	庭園植栽ゾーン(新公会堂)

表：重要樹木リスト

⑦重要樹木に準ずる樹木

計画地内に重要樹木が数少ないことから、重要樹木に準ずる樹木として、毎木調査（平成 26 年 10～11 月実施）結果より以下の規格を満たす樹木を抽出した。（前述の重要樹木を含む。）

ア) 幹周 3m以上の樹木

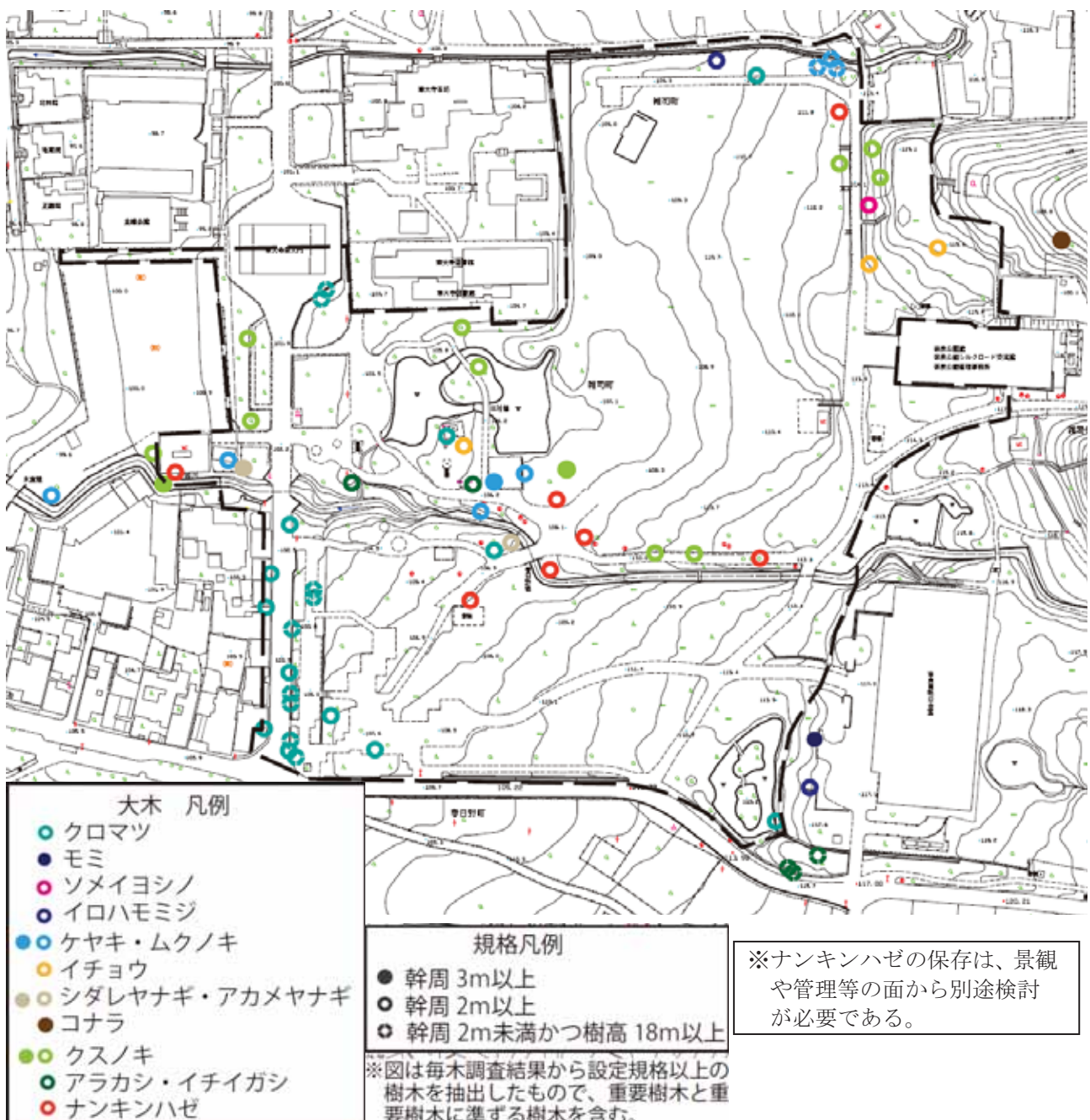
・クロマツ 2本 クスノキ 2本 ケヤキ、アカメヤナギ、モミ各 1本

イ) 幹周 2m以上の樹木

・クロマツ 9本 クスノキ 9本 ケヤキ 4本 イチョウ 3本 ナンキンハゼ 3本
アラカシ、エノキ、シダレヤナギ、ムクノキ、イロハモミジ各 1本

ウ) 幹周 2m未満かつ樹高 18m以上の樹木

クロマツ 6本 ナンキンハゼ 7本 イチイガシ 2本 ケヤキ 1本



図：保存すべき大木（重要樹木・重要樹木に準ずる樹木）